

「人権を考える集い 2021」

演 題 ケアする人をケアすること ～障害のある子をもつ親たちの体験から～

講 師 一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事

児 玉 真 美 さん

1 日 時 2021年8月3日(火) 14:00~16:00 (開場13:30~)

2 場 所 新日本造機ホール(くれ絆ホール)
呉市中央4丁目1-6 呉市役所1階

3 参加費 **無 料**

4 申 込 7月27日(火)までに、電話又はメールで
呉市 人権・男女共同参画課へ
住所・氏名・電話番号をお知らせください。

5 申込先 呉市 人権・男女共同参画課 内
「世界人権宣言」呉実行委員会事務局
電話(0823)25-3476
E-mail:zinken@city.kure.lg.jp



※新型コロナウイルス感染症予防のため、マスクの着用をお願いします。

【講演内容】

家族などを無償で介護している人のことを「ケアラー」と言います。ケアラーの中でも最も社会から見えにくい存在が、障害のある子をもつ親かもしれません。親による我が子の介護は、子どもがいくつになっても「子育て」のイメージに取り込まれて、当たり前だと見られがちです。でも親だって、疲れもすれば病み、老い、衰える生身の人間。コロナ禍でも、ケアラーには大きな負担がのしかかっています。親たちはどのような人生を生きてきて、今どのような生活を送り、自身の老いを前に何を感じ、考えているのでしょうか。親たちの体験をもとに、ケアする人をケアすることについて、皆さんといっしょに考えてみたいと思います

【講師プロフィール】

1956年生まれ。呉市在住。長女に重い障害がある。一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事。フリー・ライター。著書に『私は私らしい障害児の親でいい』(ぶどう社)、『海のいる風景～重症心身障害のある子どもの親であるということ』(生活書院)、『殺す親 殺させられる親～重い障害のある人の親の立場で考える尊厳死・意思決定・地域移行』(生活書院)、『私たちはふつうに老いることができない～高齢化する障害者家族』(大月書店)など。